



# 商工会議所LOBO(早期景気観測)

## —2016年3月調査結果(概要版・付帯調査)—

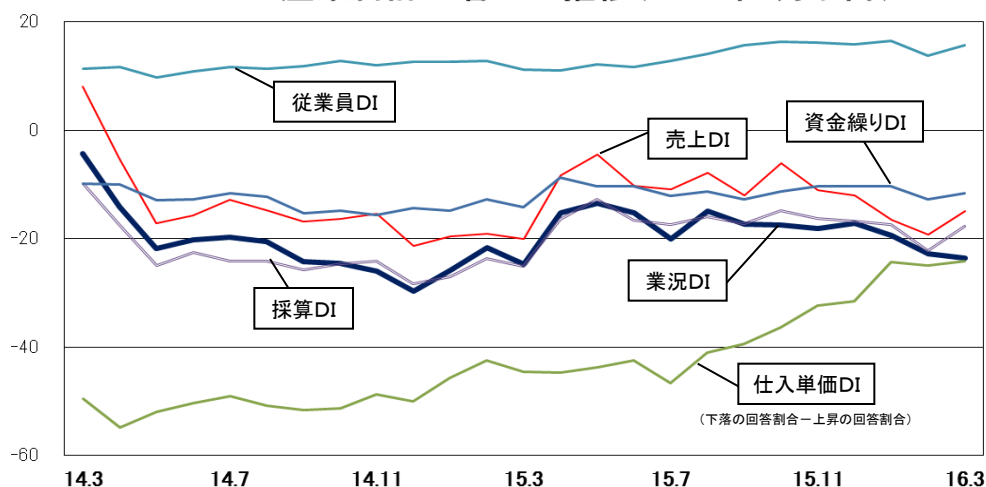
2016年3月31日

業況DIは、足踏み状況。先行きも不透明感強く、慎重な見方が続く

### ポイント

- ▶ 3月の全産業合計の業況DIは、▲23.6と、前月から▲0.8ポイントのほぼ横ばい。原材料価格や燃料費などの下落の恩恵が続く中、好調な観光需要による下支えのほか、設備投資にも持ち直しの動きがみられる。他方、人件費上昇や受注機会の損失など人手不足の影響拡大、消費低迷の長期化に加え、新興国経済の減速、不安定な金融市場など、取り巻く環境の厳しさがマインドを鈍らせており、中小企業の業況感は足踏み状況となっている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲22.1(今月比+1.5ポイント)と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。春の観光シーズンに向けた需要拡大や設備投資の持ち直し、補正予算・来年度予算の早期執行などへの期待感が伺える。他方、新興国経済の減速やマイナス金利政策を含めた金融市場の不透明感もあり、先行きが見通しづらい中、中小企業においては、消費低迷の長期化や人手不足の影響拡大、春闘の結果を受けた人件費の動向と価格転嫁の遅れに対する懸念などから、慎重な見方が続いている。

### LOBO全産業合計の各DIの推移(2014年3月以降)

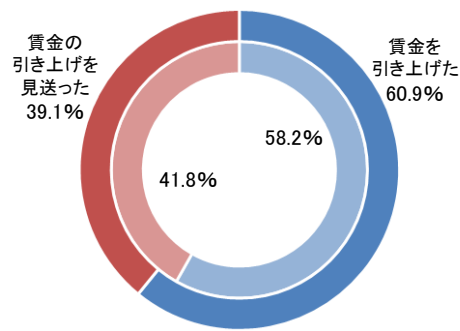


### 所定内賃金の動向(2015年度実績、2016年度見通し)

- ▶ 2015年度の所定内賃金について、「引き上げた」企業(全産業)は60.9%と前年同月調査に比べ2.7%増加
- ▶ 2016年度に「賃金を引き上げる予定」の企業(全産業)は44.8%、「現時点では未定」は31.6%、「賃金を引き上げる予定なし」は23.6%
- ▶ 「賃金を引き上げる予定」の企業を業種別に見ると、卸売業(53.5%)が最も多く、製造業(52.7%)、建設業(49.7%)、サービス業(41.3%)、小売業(30.4%)と続く

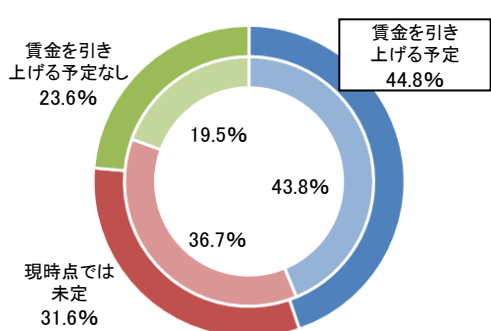
#### ◆2015年度の所定内賃金の実績(全産業)

※円グラフの外側が2016年3月調査、内側は前年同月調査



#### ◆2016年度の所定内賃金の見通し(全産業)

※円グラフの外側が2016年3月調査、内側は前年同月調査

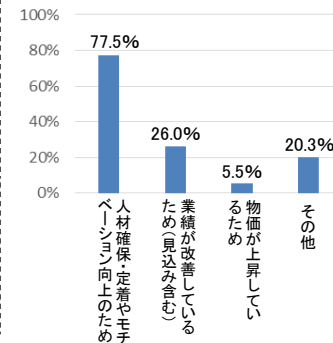


### [中小企業の声]

- ▶ 従業員の定着やモチベーション向上のために、賃上げだけでなく、長時間労働の是正や福利厚生の充実など労働環境の整備にも積極的に取り組んでいる (札幌 運送業)
- ▶ 売り上げが下降している中で、最低賃金の上昇に加え社会保険料の負担も年々重くなっており、賃上げは難しい (むさし府中 食料・日用品小売業)
- ▶ 今年度は、何とかベースアップを行ったが、衣料品業界は景気の波が激しく、先行きが見通せないため、2年連続でのベースアップには踏み切れない (今治 衣料品製造業)

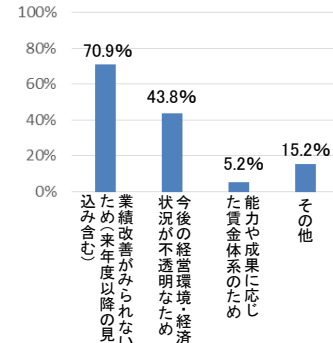
#### 賃金を引き上げる主な理由

※賃金を引き上げる予定の企業が対象・複数回答



#### 賃金の引き上げを見送る・未定の主な理由

※賃金の引き上げを見送る・未定の企業が対象・複数回答



#### <業種別の割合>

建設業	49.7%
製造業	52.7%
卸売業	53.5%
小売業	30.4%
サービス業	41.8%

#### <賃金引き上げの内容>

定期昇給	: 86.0%
ベースアップ	: 21.0%
手当の新設・増額	: 10.1%

※賃金を引き上げる予定の企業が対象・複数回答